

新しい「領解文」
(浄土真宗のみ教え)

私たちのちかい



浄土真宗本願寺派
東京教区教務所

あた りょう げ もん じょう ど しん しゅう おし
新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

な も あ み だ ぶつ
南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声

わたし ほん のう ほとけ ほん らい ひと
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といただいで

この愚身をまかす このままで

すく と じ ねん じょう ど
救い取られる 自然の浄土

ぶつ とん ほう しゃ ねん ぶつ
仏恩報謝の お念仏

これもひとえに

しゅう そ しん らん しょう にん
宗祖親鸞聖人と

ほう どう でん しょう れき だい しゅう しゅ
法灯を伝承された 歴代宗主の

とう と みち び
尊いお導きに よるものです

おし よ い もの
み教えを依りどころに生きる者 となり

すこ とら こころ はな
少しずつ 執われの心を 離れます

い かん しゃ
生かされていることに 感謝して

むさ ぼり いかりに なが なが
むさぼり いかりに 流されず

おだ かお やさ こと ば
穏やかな顔と 優しい言葉

よろこ かな わ あ
喜びも 悲しみも 分かち合い

ひ び せい いっ ぱい
日々に 精一杯 つとめます

2023(令和5)年1月16日の御正忌報恩講法要ご満座に引き続き
「御消息発布式」が執り行われ、新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)に
ついでにの消息が発布されました。ご門主様はご消息で、

『新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を僧俗を問わず多くの方々に、
さまざまな機会に拝読、唱和いただき、み教えの肝要が広く、また次
の世代に確実に伝わることを切に願っております』とお示しいただい
ております。

※ご消息…ご門主様から発布される文章(お手紙)

わたし

私たちのちかい

ひとつ 一、^{じ ぶん から と}自分の殻に閉じこもることなく
^{おだ かお やさ こと ぼ たいせつ}穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
^{ほほ え かた ほとけ}微笑み語りかける仏さまのように

ひとつ 一、^{なが}むさぼり、いかり、おろかさ^なに流されず
^{こころ ふ ま こころ}しなやかな心と振る舞いを心がけます
^{こころやす ほとけ}心安らかな仏さまのように

ひとつ 一、^{じ ぶん だいじ}自分だけを大事^{だいじ}にすることなく
^{ひと よろこ かな わ あ}人と喜びや悲しみを分かち合います
^{じ ひ み ほとけ}慈悲に満ちみちた仏さまのように

ひとつ 一、^{い き}生かされていることに気づき
^{ひ び せい いっばい}日々に精一杯つとめます
^{ひと すく つ ほとけ}人びとの救いに尽くす仏さまのように

『私たちのちかい』は、伝灯奉告法要初日のご親教「念仏者の生き方」を皆様により親しみ、理解していただくようにと、肝要を四カ条にまとめられ、特に若い人の宗教離れが盛んに言われている今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々に、様々な機会^{きかい}で唱和してほしいと願われ、2018(平成30)年11月、秋の法要において、ご親教としてお述べになりました。

※ご親教…ご門主様の行われるご法話・ご布教

東京教区教務所HP



PDFデータのDLはこちら



**浄土真宗本願寺派
東京教区教務所**

東京都中央区築地3-15-1

TEL 03-3541-1666 FAX 03-3546-1860